



伊藤穰一の

フューチャースケープ

ROUND6 著作権を超えて～未来のコンテンツの姿

ナブスターやら WinMX やら、最近ではファイルローグなんかで、こしばらくなにかと話題になっている著作権。でも、考えてみれば、シェイクスピアもモーツァルトも、著作権がない時代にあんなにクリエイティブなもの作ってたわけだよね。それから浮世絵。あそこまで洗練を極めた表現形態なのに、この世から音も立てずに絵師たちは消えてしまった。でもそれは、著作権に守られていなかったからでは絶対ない。

今回はそんな風にちょっと視線を引いて著作権というコンセプトを考え直すことから始めて、「インターネットの時代のコンテンツってどうなるんだろう」ということを考えてみようと思う。

構成・先田千映

Photo : Nakamura Tohru (mermaid)

ハリー・ポッターをダウンロード!?

結論 技術的にはネットで著作権を守ることにはできない。一度デジタル化されたら、守ることは不可能だ。

Morpheus(1)というナブスターの生まれ変わりみたいなP2Pソフトがある。僕はこれでハリー・ポッターの映画をダウンロードできるらしいというので、試しにやってみた。単に「こんなことまでできちゃうんだよ」ということを見せようと思ってやったんだけど.....実際、できてしまった。

もうみんな気がついていると思うけど、著作権を守る技術ができれば、必ずそれをバイパスする技術が現れる。そして後者のスピードの方が明らかに速い。どうしたって止められるはずはない。

たとえばDVDのコピー防止暗号解読プログラム「DeCSS」の問題もそう。映画業界はもうかなり必死で、セキュリティーの学会の会議まで潰そうとしたり、はるばるノルウェーの16歳のハッカーを逮捕させたり

はては、関連するウェブサイトリンクしただけで訴訟も辞さない勢いだ。要は、そこまでしなきゃ守れないわけ。

で、考えてみよう。著作権って、そんなに「絶対不可侵」なものなの?

著作権は出版「社」を守るものだった

始まりを振り返ってみると、この著作権(コピーライト)って考え方、16世紀のイギリスで、出版・印刷業者のギルドが「勝手に本を印刷してるやつらを取り締まろう」って取り決めをしたのがそもそものきっかけだったりする。1710年に初めてコピーライト成文法ができたときにも、「著作者の権利」を守るというよりは、そういう「出版する権利をもっている人の権益」を守ることに最初から視点が行っていったんだ。

要するに、大量印刷・大量コピーが可能になって初めて生まれてきた考え方なわけで、グーテンベルク以前には「著作者」

というコンセプトだってすごくあまいなものだった。書き残すべき情報というのは過去に神が創ったものであって、自分たちはそれを過去から未来に伝える役割に過ぎないと思っていたんだね。修道院の中で誰かが話したことを誰かが書き留めて、その横に誰かがメモしたり、それを別の修道院で誰かが書き写したり トマス・アクィナスの『神学大全』にしたって、彼の著作というよりは彼が集めてきた情報で、しかも弟子によって完成されていたりする。

音楽のほうを見てみよう。同じくらいの時代だと、吟遊詩人がその前の吟遊詩人から伝えられた歌を、自分はちょっと詞を変えたりして、また次の人に伝えていたわけだ。そして、そういう歌をキャンプファイアのまわりで歌って、みんなに喜ばれて、報酬をもらって、コミュニティーの一員として認められていた。

そういう時代のクリエイターやアーティストたちは、それなりに楽しく一生懸命やって、ご飯もだいたい食べられてなんとか生きてたんだよね。それでちゃんと音楽も成長したし、哲学も生まれてきたし、いろんなことが起きていた。

ところが印刷機というものが現れて、情報を形にすることができるようになったとたんに、作ったり演じたりするわけでもない人が権利を売買したり、情報をモノのように扱ったりするようになった。やがて情報を限りなくモノに近い形で大量生産できるようになった。

本来の「著作者の権利」はクレジットとかキチンとした評価という形で永続するものだと思うけれど、今の「著作権」は、大量生産の時代独特の不思議な現象にすぎないと僕は考える。

著作権だけで食える作曲家はたった530人

そういえば、今、著作権で守られているのは誰の権利なんだろう。

たとえば日本の音楽業界。ある作曲家

によれば、JASRACから年間500万円以上を受け取っているアーティストは530人しかいないらしい(ちなみにそのうちクラシックの作曲家はたったの5人だそうだ)。会員が1万22人だから、全体の5パーセントだ。作曲家が著作権だけでメシを食べているとすれば、失業率95パーセントということになる。

つまり、アーティストのための著作権ではないことは明らかだ。イギリス国王と印刷屋さんが作った著作権は、言ってしまうと現在ではハリウッドやマイクロソフトやソニーミュージックのための著作権になってしまっている。こういう企業は、消費者にも求められているし、お金もたくさんあるし、優秀な弁護士も大勢いるから、まだ自分著作権の時代は続くだろう。

それに実際、「著作権で守ってあげよう」というのは悪いことじゃない。いい悪いという話じゃなくて、中長期的に見れば、著作権というのは必ずしも絶対的なものではないということだけのことだ。

「その時代の、その社会の構造の中でしかできない美しいもの」って、いろいろある。たとえばピラミッド。あれはファラオが奴隷を大勢こき使うような社会構造だったからこそできたわけで、美しいし素晴らしいけど、だからってまた作るようなものじゃない。それと同じで、ハリウッドの超大作アクション映画みたいなものも、100年後に振り返ってみたら……どうなんだろう。

ハリウッドのために何人のアーティストが犠牲になっているか。どれだけ他の国の文化が犠牲になっているか たぶん今いちばん著作権や特許のことを気にしてるのがハリウッドとマイクロソフトなんだけど、この2つの存在のために犠牲になっているものって相当あるよね。

そういう風に考えていくと、これからはみんなを結びつける共通の価値観、自分が幸せであるためにみんなで守る“commons”を中心に、新しい「美しいもの」が生まれてくるんじゃないかと僕は思

ある作曲家によれば

JASRACから年間500万円以上を受け取っているアーティストは530人しかいないらしい

情報の複製がすごく簡単になって
価値が相対的に下がっていく
だからこそ「本物」や「ライブ」の
価値が増すんだと思う。

う。たとえばLinuxだって(実は著作権を使ってオープンになっているわけだけど) そうだ。みんながコミュニティーの一員として貢献して、単なるお金ではない報酬システムが機能して、これだけ大きくなったわけだから。

コンテンツは時代とともに進化する

コンテンツはその時代その時代に合わせて形を変えている。たとえば何千人も集めるスタジアムコンサートなんて、電気アンプができる前はあり得ないものだった。レコードとか、テレビとか、新しいメディアが出てくるたびにそれぞれに合ったコンテンツが生まれてきていたわけで、同じように、インターネットの時代に最適なコンテンツの形もあるはずだ。現状はまだまだ「オンラインで見られるCD-ROM」の域を出ていないけど、アルスエレクトロニカ(2)なんかの動きを見ていると、これから生まれてくることは間違いない。

そのコアになるのは、やはりインターネットの本質である「n対nのコミュニケーション」が、常時で、しかもすごく安くできることなんだと思う。たとえば音楽産業のマーケットが縮小しているという話だけど、その分若い人たちが何にお金を使っているかという、コミュニケーションのための携帯電話やメールだったりする。

ひとつキーワードになるのは、コンテキストの重要性だ。つまり人と人との関係や、時間軸において価値が生まれるもの。それはコミュニティーにおける評判だったり、アーティストとのメールのやり取りであったり、リアルタイムの株価情報だったりする。

とはいっても現状では誰にとっても同じような価値があるlow contextなコンテンツ 紅白や水戸黄門、ハリウッドや朝日新聞の一面 に対する需要は確実に存在していて、時代がもう1回転、2回転するまでは続くだろう。そういう「みんなが見たい同じもの」に関しては、現行のメディ

ア網はすごく効率がいい。これはすぐにはなくなる。だけど、今のメディアの形を時代に合わせてアレンジしていくということは考えないほうがいいと思う。紅白に外人タレントを入れるようなもので、結局ダメになる。

同じように、映画だって「ブロードバンドでDSLビデオオンデマンドだよん」なんて言われても、僕にはピンと来ない。だって、そんなもので見なくても、みんなもっと快適に自宅のテレビで映画楽しんでるよね。

そんなものより、僕が「ネットとテレビの正しい融合だな」と思うのは、ハードディスクレコーダーのTivo(3)だ。ネットで番組表を検索できて、自分の番組アーカイブを一覧できて、しかもネットを通じてみんなとファイルをシェアするなんて現象まで起きている。

もうひとつ面白いのが、インターネットアーカイブ(4)を作ったブルースター・ケールが始めたビデオのアーカイブだ。要は5年前くらいからのテレビ番組をどんどんデジタル化して、アーカイブ化してるわけ。これ、「アーカイブ」って呼び方でついでにまかされちゃうけど.....すごい著作権侵害だよ。Morpheusもそうだけど、こういうことが可能になってきちゃうと、ここで考え方をガラッと変えたほうがいい。

コミュニティーから生まれる未来

ただ、デジタル化によって、情報の複製がすごく簡単になって、価値が相対的に下がっていく時代だからこそ、「本物」や「ライブ」の価値が増すんだと思う。eBayなんかがあればメジャーになったのは、やっぱりみんな「本物」にしがみつきたい気持ちがあるんだろう。

たとえば、ローマ法王の演説を聴くと病気が治る、という話がある。トニー・バーナーという僕の友だちが、法王の演説を世界中に生中継したんだけど、そのとき、彼は考えた。「今、ライブで見てる人の病気

は治るかもしれない。でもこの中継を見てる人は？ 録画で見た人は？ 録画を違法コピーして見た人は？」 結局、そんなもんなんだよね。違法コピーはいくらでも手に入るけど、みんなやっぱり本物のパフォーマンスが見たい。

ネットの時代もパフォーマンスは残る。ネットの時代だからこそリアルな体験の価値がさらに上がる。これからは、直接ファンと近づいて、コミュニケーションの中でコンテキストを高めて、より高い付加価値を出して、直接払ってもらおう。そういうやり方が、これからは自然になると思う。作品はどうせコピーできちゃうんだから、タダで配って楽しんでもらう。価値を発生させるのはその周辺にあるコミュニケーションやパフォーマンスの力だ。

みんなが個人で音楽や映像を作って、メールで送ったり、ウェブで公開したり、そういうところにコミュニティーができてきて、その中から本当のアーティストが生まれてくる。彼らは、自分が楽しいから作って、人に喜んでもらえるからどんどんアウトプットしていく。

ネットならではのコンテンツの新しい形というのは、たぶん彼らアーティストを取り巻くコミュニティーで生まれるはずだ。それが大きくなってくれば、そういうコミュニティーに対するサービスを提供するためのプラットフォームビジネスも出てくる。

これはウェブサービスの話にもつながるんだけど、ネットではいろんなサービスが融合できるので、「僕は集客担当」「私は集金担当」「俺は発送担当」という役割分担のパーツがカチャッとハマってビジネスが誕生する。間にプロダクションとか広告代理店を入れなくても、利益折半ができる。アーティストが正当な評価と収入を得るための選択肢が増えてくるということだ。

今あるものは永遠ではない。消費者と思わずに当事者と思う。そこから新しいコンテンツが生まれるのだと僕は思う。

【用語解説】

1 Morpheus

MusicCity.comが無償で提供するファイル交換のためのP2Pソフトで、ナプスターのような中継サーバーを持たず、完全に分散化されている。さまざまなメディアタイプのファイルを交換でき、検索が高速なもの特徴的である。MorpheusはFastTrack社の技術を使っており、同種のP2PソフトにKaZaAやgroksterがある。これらはライブラリーを共有しているため、数百万規模のユーザーがつながっているといわれている。著作権侵害で米映画会社や米レコード会社がこれらのP2Pソフトを配布する各社を提訴している。

 www.musiccity.com

2 アルスエレクトロニカ

オーストリアのリンツで毎年開催される世界最大規模の電子芸術祭。2000年までは1つだったインターネット部門が昨年から2部門(Net ExcellenceとNet Vision)となり、幅広い分野からの作品が集まっている。かつては、センソリウムやポストベツトが金賞を、また、昨年はNet Visionでネットゲームのファンタジースターオンラインや携帯サイトのイマヒマなどが受賞するなど、日本勢の受賞は多い。ちなみに伊藤穰一氏は2002年の審査員となっている。

 www.aec.at

3 Tivo

ハードディスクを搭載したデジタルビデオレコーダー。インターネットから取得した番組表で好みの番組を録画設定できる。録画しながらすでに録画したものを再生できるなど、番組を自分で編成できる革新的な商品となった。このパーソナルテレビ市場にはReplayTV(ソニックブルーが買収)やマイクロソフトのUltimate TVなどがある。Tivoは1999年にソニーと提携を結んでいる。

 www.tivo.com

4 インターネットアーカイブ

デジタルコンテンツを保存するライブラリーを構築するために1996年に設立された。100億ページものウェブページを保存したWayback Machineでは、1996年からの世界中のウェブサイトが見られる。ここで言及しているテレビのアーカイブは「テレビジョンアーカイブ」で、最初に集めた番組は昨年9月11日の同時テロに関する世界中のテレビニュースである。

 www.archive.org



from Joi's Diary

 www.neoteny.com/jito/

【2002年2月某日】

ブロードバンドが話題になっているけど、ブロードバンドの何が一番特徴的なことかという、メールを安く24時間常時接続で使えることと、ヤフーBBもやってくれたけど、電話がタダになることだと思う。こういった機能がオマケでついてくるからブロードバンドに加入するようになって、ちなみに他のこともするようになる。でも、結局それでも儲かるのは誰もいないんだ。だから今回書いたことが重要になってくるんだと思うよ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp